

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2009.5 vol.

38

## 鹿児島医療センター附属 鹿児島看護学校

## 第18回生入学式



親睦を深め、看護師を志すという同じ目標をもったクラスの仲間と共に学校生活に対する希望や期待、意気込みが高まりました。また、学生の緊張感が和らぎ、クラスの雰囲気明るく活気に満ちてきました。

現在、基礎分野の情報科学、社会学、

文化人類学、心理学、体育理論・実技、専門基礎分野の解剖学、生化学、専門分野の看護学概論などの講義が本格的に始まりました。高校までとは異なる学習内容や授業形態に対する戸惑いを緩和するために、今年度より新生ゼミを実施しています。自分たちが興味・関心のある人物に関するテーマを設定し、人物を探求する過程で自分たちの感性やアイデア、適応力などを十分に発揮しながら一人ひとりが与えられた課題に対して意欲的に取り組んでいます。

これから3年間、各自が理想とする看護師像を目指して主体的に学び続けていってくれるものと期待しています。

（文責：間宮 みどり）

新生を祝福するような桜が満開のよき日に在校生や来賓の方々、学校職員に温かく迎えられ、第18回生131名が入学しました。新生は晴れやか、かつ緊張感のある表情で保護者の皆様から見守られ、入学式開式の辞を迎えました。山下学校長から新生、保護者に対して看護を志すことのすばらしさや多くの同窓生、講師、実習指導者などから教えを受け、看護学生として成長していくことへの期待、願いを込めて告辞をいただきました。

新生代表の学生による宣誓では、本校の基本理念である人間愛と探求心を育み、ヒューマンケアの実践者を育成するという考えに基づき、理想の看護師像を目指して学び続けることや何事にも挑戦していくことを立派に誓いました。また、在校生は学校生活で得た多くの経験や思い出を伝え、先輩として新生と共に学んでいくことができるように歓迎のメッセージを送りました。

盛大な入学式を終え、女子118名、男子13名の学生が新しいクラスの仲間として顔を合わせ、新たな学校生活が始まりました。4月15日～16日には独立行政法人国立大隈青少年自然の家で一泊二日の新生セミナーを行いました。福岡生涯学習研究所の所長である吉村和昭先生を講師として招き、ゲームや課題などの仲間作り活動に取り組みました。そこで、学生間の交流や





## 副院長ご挨拶

4月1日付けで副院長を拝命致しました。山下正文新院長のもと新たな体制で、中村一彦前院長をはじめ代々の院長が築いてこられた鹿児島医療センターをさらに発展させるべく努力したいと思っております。

当院は、循環器疾患、脳卒中、がん診療の基幹病院としての役割を担っています。前号(4月号)の山下院長のご挨拶にありますように、循環器疾患、脳卒中についてはよく認知されるようになってきたと思っております。一方、当院は鹿児島医療圏における地域がん診療拠点病院としての役割を担っているものの、まだ十分に認知されているとはいえません。特にこれからの医療を担っていく医学生や研修医の人たちの認知度は不十分といわざるをえません。副院長の役割としては、循環器疾患、脳卒中の診療面の体制強化は勿論ですが、がん診療の強化も当面の課題と考えています。がん系診療科としては内科系で血液内科、消化器内科、放射線科、外科系として外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、泌尿器科があり、診療科によっては少ない医師数で激務にもかかわらず懸命に頑張っています。このため診療面では徐々に整備されてきています。今年のがん拠点病院の更新もあり、がん緩和あるいは相談支援といったまだ不十分な面の整備が急務と考えています。病院経営は毎年厳しくなり大変ですが、山下院長の『質の良い医療を提供して患者さんに満足してもらえる病院』を目指して頑張りたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。

(副院長 花田 修一)



## ご挨拶

このたび統括診療部長を拝命しました。その重大性と責任性に、当然のことながら身の引き締まる思いの中におります。皆様のご協力とお力添えを切にお願い申し上げます。

私たち団塊の世代が卒業してから35年前後が経ちましたが、卒業したころの循環器の領域はエコー機器はもちろん、CT検査もMRI検査もありませんでした。シネフィルムなど遠い国のお話で、心臓カテーテル検査ではカットフィルムによる左室造影や冠動脈造影が行われ、PCIなど影も形もありませんでした。ペースメーカーも今の5倍ぐらいの大きさのものが、ようやく鹿児島でも挿入されたような状況でした。急性心筋梗塞、大動脈解離、肺梗塞の患者さんも診断すらつかずに死んでいくことも多かったのです。当時の大平首相も遊説中に心筋梗塞で亡くなっています。日本の経済が潤うようになっていろいろな医療機器が目前に現れ、私たちはその技術の習得に我を忘れて没頭し、気がついたら技術はいつの間にか先進国のレベルに達していたのです。一方で技術を支えるソフト面には大きな遅れのあることもまたはっきりと見えてきました。日本では道端で人が倒れていたら病院に運び、原因次第でPCIやペースメーカーの治療をしますが、お金がないと血液透析すらしてもらえないのがアメリカの医療です。今後、高度医療に経済的な歯止めがかかるのはある程度避けられないとは言え、少なくとも地方にある国立病院機構の役割の一つは日本の医療の底上げを守り続けることにあると思います。同時にまた、臨床医、看護師、検査技師、薬剤師、栄養士の育成、さらにその間を繋ぐシステムの開発や新たな役割をはたす人材の発掘もやりがいのあることに思えます。多くの問題に取り囲まれた現代日本の医療ですが、地球規模でみても日本の医療は捨てたものではありません。今は医療に関する多くの問題を考え直すいい機会であり、より良い状況を作ってゆくチャンスが到来しているのではないのでしょうか。

鹿児島医療センターは35年前まで鹿児島大学付属病院のあった所で、鶴丸城の中には基礎医学の赤い屋根瓦の教室棟が並んでいました。私はこの場所での最後の卒業生ですが、このあたりはまさに我々の世代(山下院長、花田副院長、濱田先生、豊平先生、宮崎先生、吉永先生)にとって若い時代の舞台だった所です。そこにはまた新しい時代の医療を夢見てこの場所を旅だった数多くの私たちの世代の残像とその人たちの熱いまなざしも感じられてなりません。この病院には次の時代を牽引してゆく期待があり、また我々はそれにこたえる責任があると思っております。微力ながら私なりに努力したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(統括診療部長 皆越 眞一)

# ご挨拶



4月1日付で西別府病院より配置換で参りました事務部長の四元正明と申します。

「元」の名前が示すとおり鹿児島出身です。前任地の別府は湯の煙たなびく温泉地でしたが、鹿児島市も県庁所在地では源泉数280と日本一だそうです。別府では至る所にある市営温泉に入りましたが、鹿児島でも探索をしたいと思ひます。

当院はご存じのように主に3大疾病（脳卒中・循環器・がん）の専門病院です。地元の先生方のご協力無しには専門病院としての役割を担うことは不可能です。

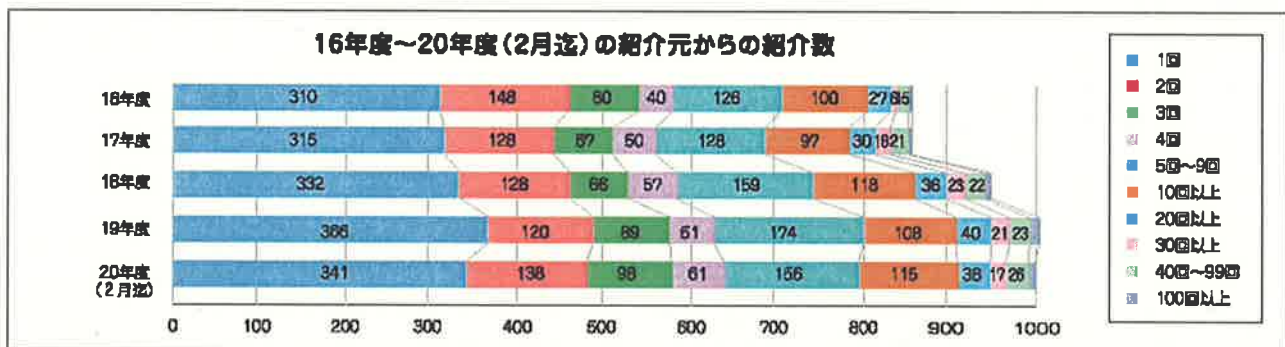
独立行政法人になってからの地域医療連携室の紹介元病院（医科・歯科・クリニック含む）の推移を調べてみますと平成16年度853病院、17年度855病院、18年度948病院、19年度1,004病院、20年度（2月迄）997病院と着実に地域の医療機関の先生方の支援で支えられているのがわかります。また21年2月現在までに1回以上紹介していただいた医療機関数は1,801に昇ります。

また、下表のグラフでは当院へ紹介して頂いた年度別の回数ですが、1回の紹介が全体の3割以上を占めていますが、それぞれの病院、クリニックの役割の中で広く当院の専門性を理解して頂き、紹介して頂いている姿が見えてきます。

紹介元病院も県内各地はもとより、九州及び全国からも紹介して頂いております。これも地元の先生方のご紹介の積み重ねの結果だと思ひます。

今後とも事務部門として地域医療連携の絆を強めるためにも医療部門と協力して地域の先生方の期待に沿うべく努力致しますのでご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

（事務部長 四元 正明）



## 新任紹介



心臓血管外科 医長

まつもと かずひさ  
**松本 和久**

平成6年に鹿児島大学を卒業し、旧第二外科に入局しました。

平成10年4月から2年3ヶ月、平成17年7月から1年間当院に勤務させていただきました。今回、再び平成21年4月から勤務させていただくことになりました。勉強する事の多い毎日ですが、頑張っていきたいと思ひますのでご指導よろしくお願い致します。



消化器内科 医師

かつぎ としひみ  
**香月 稔史**

平成21年4月1日から鹿児島医療センターの消化器内科に勤務しています。平成

13年卒です。昨年までは鹿児島大学病院に勤務していました。よろしくお願い致します。

# 新任紹介



脳神経外科 医師

かわい ひろし  
**河井 浩志**

2009年4月1日より鹿兒島医療センター脳神経外科

科に配属となった河井浩志といたします。鹿兒島医療センターは循環器内科、心臓血管外科、泌尿器科、脳血管内科など内科・外科にわたって診療科が充実しており、また脳外科今村部長の手術のことはかねがね伺っていたのでこのたび就職することができることを楽しみにしていました。私は脳神経外科医として3年目と若輩でありこれから皆様にご迷惑をおかけすることも多々あると思いますがご指導ご鞭撻どうかよろしくお願いいたします。



内科 医師

はらぐち こういち  
**原口 浩一**

平成21年4月より勤務させていただきました。

平成14年にも一度お世話になりましたが、病院もきれいになり、システムも変わり、生まれ変わった病院に驚いています。充実した施設やスタッフに囲まれ、まだまだ学ぶ事の多い毎日ですが、頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



第一循環器科 医師

いりき やすひさ  
**入来 泰久**

平成14年に鹿兒島大学旧第一内科に入局しました。

平成16年5月よりレジデントとして1年3ヶ月間お世話になりました。今回、再度平成21年4月から勤務させていただきましたことになりました。患者さんのためにをモットーに当院での循環器診療に励む所存です。皆様には御迷惑をおかけすると思いますが、御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



地域連携係長

いのうえ ひろあき  
**井上 弘毅**

初めまして。4月1日より新しく地域連携係長として広報誌『鹿兒島医セン』の担当者となりました井上弘毅と申します。

4月に沖縄病院より赴任して参りました。永年住み慣れた沖縄を離れて本土での生活に不安を感じておりましたが、鹿兒島の雄大な景色に感動し、休日はドライブに、サイクリングにと自然を満喫しております。4月に桜島の灰が降ったときにはびつ

くりしましたが・・・

今月号は新しい年度も始まり、入学式や挨拶等が中心の記事になりました。初めての編集で、試行錯誤しながら進行したためにいろいろとご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。来月以降、治療法の紹介や登録医療機関の紹介・診療科の紹介等よりいっそうの内容の充実に向けて努力していきたいと思っております。

今後、地域医療連携室及び情報発信の場としての『鹿兒島医セン』の充実のためにも地域の先生方にも是非、ご支援・ご指導を承りたいと思っております。その際には下記連絡先までご意見を頂けると幸いです。よろしくお願いいたします。

## 編集後記

■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿兒島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿兒島市城山町8番1号 代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246

http://www.kagomc.jp

脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】 濱田・大波・井上・中島・田添・吉留・善福  
直通電話 ▶ 099(223)4425 フリーダイヤル専用 ▶ 0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

